令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

上尾市立東中学校

目　次

上尾市立東中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」　・・・・・・・・・ １

１　学力調査結果の概要

（１）上尾市立小・中学校学力調査（令和８年１月実施）・・・・・・・・・・・ ２
【１～２年：国語、数学、英語】

（２）全国学力・学習状況調査（令和８年４、５月実施）・・・・・・・・・・・ ６
【３年：国語、数学、英語】

（３）埼玉県学力・学習状況調査（令和８年５月実施）・・・・・・・・・・・・ ７
【１年：国語、数学】
【２～３年：国語、数学、英語】

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

（２）教育活動全体を通じた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
本校の特色ある取組
家庭教育との連携

上尾市立東中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標	学校課題研究主題
志を持って学ぶ　たくましい　心と体の東中生	「学びの循環を目指した 協働する力の育成」 ～学ぶ喜びを感じよう～

学力・学習状況調査の結果

R８全国学力・学習状況調査	R８埼玉県学力・学習状況調査	R７上尾市立小・中学校学力調査
【国語】正答率は全国および県の平均を上回っており、バランスのよい学力の定着がみられる。特に、文章理解や情報処理能力に強みがある。知識・技能面の定着にやや課題を残している。 【数学】全国・県平均と比較してバランスの取れた学力形成が確認できる。「図形」「データの活用」分野に強みがある。「反比例」「関数」「同類項」「数学的説明」に課題が見られる。 【英語】知識の活用や、まとまりのある文章を「書く」表現力など言語活動の定着が窺える。場面や状況に応じた必要な情報の聞き取りなど、「聞く」領域に明確な課題が残る。	【国語】全学年ともに県の数値と同等か上回っている。昨年度から伸びている項目も多いが、学年により偏りがある。領域別では、1，2学年は「書くこと」、3学年は「読むこと」にやや課題がある。 【数学】学力レベルは昨年度から伸びており、県の数値も上回っている。どの学年も「数と式と関数」は定着が見られるが、学習方略の「努力調整方略」や「作業方略」などが伸び悩んでいる。 【英語】3学年の学力レベルが3ポイント伸びている。「短答式」「記述式」は正答率が平均を上回っているが、記述式では無解答があるのが課題である。また、並べ替え問題にもやや課題がある。	【国語】1年生、2年生ともに全国平均と同程度の正答率であった。領域では「我が国の言語文化に関する事項」と「書くこと」にやや課題があり、解答形式では記述式に課題がある。 【数学】1年生、2年生ともに全国平均をやや上回っている。領域では1年生は「関数」、2年生は「数と式」にやや課題があり、解答形式では記述式に課題がある。 【英語】1年生、2年生ともに全国平均より大きく上回っている。領域では全体的に上回っているが、「ほかに比べると書くこと」にやや課題があり、解答形式では記述式に課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な知識を基にした、生活や授業等の様々な場面で活用することができる力	②問題発見・解決につなげていく力 ③自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力 ④意味や価値を創造していく力	⑤主体的に学習に取組む態度 ⑥自己の感情や行動を統制する力 ⑦自らの思考の過程を客観的に捉えることのできる力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるための反復学習の徹底。 ○物事の意義や意味を考えさせる授業の実施。 ○言語活動の充実（書く活動の徹底）により、身に付けた知識・技能を活用する活動の充実。	○学習内容（何を学ぶか）を明確にした上で、「学びの過程（どのように学ぶか）」を重視した授業の実施。 ○話合い、教え合い等、他者と協働する場面のある授業の実施。 ○「思考ツール（マインドマップ、知識構成型ジグソー法等）」を活用した授業の実施。	○生徒が興味をもつ課題と教材の充実。 ○グループ学習や体験的な活動を多く取り入れた授業の実施。 ○ワークショップを取り入れた参加型授業の実施。 ○自分の生き方、自分事として考える振り返りの充実。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
グローバルシティズンシップ教育を総合的な学習の時間で実施している。探究的な学習活動を繰り返し行うことで、各教科で身に付けた知識や技能をより一層高めたり、学習活動への意欲を高めることに繋がっている。	○家庭学習（宿題・復習・予習）を生かす授業の創意・工夫を行う。（「まなびポケット」オンラインドリル「eboard」の説明動画や練習問題の活用等） ○保護者アンケートを実施し、授業に生かす。

1　学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和8年1月実施)

1年(令和8年度2年)【国語】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○基礎は3.4ポイント、活用は1.3ポイント目標値を上回っており、知識技能の観点では6.9ポイント目標値を上回っている。基本的な学力は定着している。 ●書くことの領域や記述の解答形式が、目標値を10ポイント近く下回っており、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	≒	特定の教材に限らず読解のポイントを指導することで、読みの力が向上した。自分の考えを文章にして表現する活動の振り返りが十分にできていなかった。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力の育成 ・自らの思考の過程を客観的に捉えることのできる力の育成		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。	ICT機器やノートを用いて、思考の過程が分かるようにまとめさせる。
②	文章を書く	書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考えている。	文章を書く際、事前に構成を検討させてからまとめさせる。

1年(令和8年度2年)【数学】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○基礎は3.3ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着している。観点では知識技能が2.7、思考判断表現が2.2高く、特に図形では約5ポイント上回った。 ●関数が目標を0.6ポイント下回っていて課題がある。他の項目は全項目上回っていた。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	文字式・方程式の領域ではよくできている。文字を用いて数学を解くことができているが、関数領域が目標値を下回っており関数の理解が必要である。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・基礎的・基本的な知識を確実に身に付けさせるとともに、計算等を順序だてる、論理的に解く。		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	関数	数の変化について理解している。	方程式の解法を一つずつ確認しながら順序だてて解く。
②	正負の数	素因数分解について理解している。	素因数分解の意味を確認する。

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

1年（令和8年度2年）【英語】

項目		評価	考察（○成果　●課題）
教科全体		△	○基礎は6.7ポイント、活用は6.8ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着している。領域もすべての項目で5ポイント以上上回っている。 ●記述式の問題や、資料をもとに情報を聞き取る問題に課題がある。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	知識・技能や選択問題は良くできているが、その基礎的な力を応用する力が定着していないと考える。
	主体的に学習に取り組む態度		
英語科の重点目標		・自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力の育成	

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	リスニング（対話文の応答）	対話から必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答えている	英語をチャンクとして理解できるように音読訓練を継続して行う。
②	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を書いている	使える語句を提示して書くことへの抵抗を減らす。授業時間に書く活動を継続して取り組む。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

1　学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和8年1月実施)

2年(令和8年度3年)【国語】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○基礎は3.7ポイント、活用は4.5ポイント目標値を上回っており、知識技能の観点では6.1ポイント目標値を上回っている。基本的な学力は定着している。 ●解答形式では短答は得意だが、記述式の問題に課題がみられる。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	≒	読解力や思考力に関する力の育成を授業の中でしてきた。一方で、記述力に関する力を高める時間を確保することに課題が残った。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力の育成 ・自らの思考の過程を客観的に捉えることのできる力の育成		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。	ICT機器の活用と紙面での記述の活動を分け、「書く機会」を均等に確保できるようにする。
②	文章を書く	書く内容の中心が明確になるように、文章の構成や展開を考えている。	文章を書く際、事前に構成を検討させてからまとめさせる。

2年(令和8年度3年)【数学】

項目		評価	考察(○成果　●課題)
教科全体		≒	○全体は3.9ポイント、基礎は5.4ポイント目標値を上回っている。図形の領域が10ポイント近く高く、理解が深まっている。 ●活用や思考判断表現の観点が目標値を下回っている。特に、記述式の解答形式は20ポイント近く下回り、課題がある。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≒	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	≒	基礎は定着してきているが、それを活用して応用問題を解く力に差があるため、小テストや確認テストの結果を分析し、学び直しの機会を設定する必要がある。
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・基礎的・基本的な知識を基にした、生活や授業等の様々な場面で活用することができる力の育成		

重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	1次関数	1次関数について理解し、変化の割合の値からわかることについて正しく判断することができる。	身近な事象を例に出し、生徒の関心を深める。
②	図形の性質	平行線と同位角、錯角の関係を用いて、角の大きさを求めることができる。	基礎の定着を徹底し、反復練習を行うことで、何度も取り組む。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

2年（令和8年度3年）【英語】

項目		評価	考察（○成果　●課題）
教科全体		△	○基礎は9.1ポイント目標値を上回っており、基本的な学力は定着している。また、前回課題であった書くことは目標値より8.1ポイント上回ることができた。 ●活用や思考・判断・表現の問題が他の分類よりもポイントが低かった。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	知識・技能や選択問題は良くできているが、その基礎的な力を応用する力が定着していないと考える。
	主体的に学習に取り組む態度		
英語科の重点目標	・自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力の育成		

重点的に取り組む学習内容

課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	3文以上の英作文	課題に対して自分の意見を英文3文以上でまとめる。	課題英作文の実施と添削をする。
②	初見の文章を読んで、自分の意見を表現する	初見の文章を読み、自分ならどう考えるかなど自分の意見を英語で表現する機会を本文を読んだ後に設ける。	教科書問題だけではなく、生徒が自分事として考えることができる問題を用意する。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

（2）全国学力・学習状況調査（令和8年4、5月実施）

国語

考察（問題と結果の分析）

正答率は全体・観点別ともに全国および県の平均を約3～5ポイント上回っており、バランスのよい学力の定着がみられる。特に、場面に応じた内容の検討、文脈に即した語句の選択、表現の工夫・改善などで高い正答率を示しており、文章理解や情報処理能力に強みがある。一方で、単語の活用や助動詞といった文法分野では平均との差が小さく、知識・技能面での定着にやや課題を残している。また、記述式問題における無解答が一定数存在するため、理解した内容を自らの言葉で的確に表現する力の育成が不可欠である。今後は表現活動を積極的に取り入れ、記述力の向上を目指した指導を推進する。

課題の要因分析

「知識及び技能」の定着を図るためには、文法事項を単体の知識として暗記させるだけでなく、読解や表現の文脈の中でその働きを理解させることが重要となる。そのために、推敲の場面で適切な活用や助動詞を選択・修正する活動を取り入れ、実際の言語活動で使える知識として定着させる。また、「思考力、判断力、表現力等」における記述力の向上を図るためには、読み取った内容を構造化し、自らの言葉で再構成するプロセスの丁寧な指導が不可欠である。記述への心理的障壁を下げるため、スモールステップでの短文記述や構成メモの活用を取り入れ、根拠をもって自分の考えを的確に表現できるよう指導を工夫する。

数学

考察（問題と結果の分析）

全国・県平均と比較して全体・観点別ともに5～7ポイント高く推移しており、バランスの取れた学力形成が確認できる。強みとしては「図形」分野での概念理解や「データの活用」分野における「散らばりや傾向を捉える統計的思考力」が挙げられる。一方で、「反比例」は平均を5ポイント下回ったほか、「関数」「同類項」「数学的説明」では平均並みにとどまるなど、変化と対応の分析や代数的処理、理由の言語化に課題が見られる。特に記述問題における無解答の散見は、思考結果を適切に表現し切るハードルの高さを示唆している。今後は、数学的な見方・考え方を言葉や式で表現し合う活動を重視し、記述力の育成を目指した授業改善を進める。

課題の要因分析

関数における表・式・グラフを相互に関連付ける理解の不足や、計算根拠を意識しない機械的な処理が要因と考えられる。また、記述式の無解答からは、思考を論理的に組み立てる未習熟や心理的障壁が窺える。今後は、概念の多角的な理解や計算根拠の言語化を図るとともに、考えを表現し合う言語活動を取り入れ、記述力の向上を目指す。

英語

考察（問題と結果の分析）

「読む」活動を通じた知識の活用や、考えや気持ちを整理してまとまりのある文章を「書く」表現力には強みがみられ、文字情報を介した言語活動の定着が窺える。一方で、場面や状況に応じた必要な情報の聞き取りや、話の概要把握における正答率が低く、「聞く」領域に明確な課題が残る。

課題の要因分析

要因として、文字に頼った学習から脱却しきれておらず、流れてくる音声情報をリアルタイムで処理し、目的に沿って要点を抽出・整理する実践的なトレーニングの不足が考えられる。今後は、音声を聞いて要点をメモする活動や、状況設定を意識した情報抽出演習を日常的に取り入れる。読解や記述で培った語彙・文法知識を「聞く」活動へも連動させ、音声によるコミュニケーションの中で必要な情報を的確に捉える力の育成を目指す。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)
※主な参考資料　帳票09、40

国語

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
1年	校内	8-B	-	-	R8数値	3.7	3.6	3.6	4	3.9	3.4	4.1
	県	8-B	4	7-C	県	3.7	3.7	3.6	4.0	3.8	3.4	3.9

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは県と同じである。昨年度からの学力の伸びた生徒が93.7%で、県平均より3.8%多い。努力調整方略が0.1、自制心が0.2、県平均より上回っている。一方でプランニング方略が0.1下回っている。
・平均正答率が県平均より3.3上回っている。教科の領域等は全体的に平均より上回り、特に読むことが4.2ポイント高い。登場人物の心情や性格を適切に選択する問題の正答率が県平均より約5～8ポイント高い。しかし、文章中から適切に抜き出す問題では無解答が13.1%と高い数値が出た。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・授業の中で読書指導に取り組み、「場面の展開、登場人物の人物像や相互関係、心情の変化について捉える力」が身に付いた。
・定期テストの中で、課題文に関する記述式の問題に加え、指定した語句を用いて記述する問題を出題し、適切に表現する力を高められた。
・体言や接続語を選ぶ問題など知識問題は、ワークシート等を用いて繰り返し解かせ、定着させていく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
2年	校内	8-A	2	8-C	R8数値	3.5	3.4	3.4	3.8	3.5	3.3	2.9
	県	8-B	1	8-C	伸び	-0.1	-0.2	0.0	-0.2	-0.3	-0.2	-0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは県の数値を1上回っている。学習方略・非認知能力の伸びについてはほぼすべての項目でマイナスとなっている。
・平均正答率は県平均を1.4上回っている。教科の領域等でも全体的に県平均を上回っており、特に読むことが2ポイント高い。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・授業の中で話し合い活動を多く取り入れ、「自分が聞こうとする意図に応じて質問する」問題については正答率が県平均より6.8ポイント上回った。
・「主述のねじれを推敲する」問題に関して、正答率が県平均を6.5ポイント下回っているため、各単元で記述の問題に取り組んだ際、書いた文章を推敲する指導を行う。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
3年	校内	8-A	1	8-B	R8数値	3.8	3.8	3.7	4.1	3.7	3.4	3.9
	県	8-A	2	8-C	伸び	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは県と同じである。学習方略の数値は「柔軟的方略」「プランニング方略」「認知的方略」でそれぞれ0.1伸びている。「向社会性」の伸びについては-0.1となっている。
・平均正答率は県平均を0.6上回っている。教科の領域等の「話すこと・聞くこと、書くこと」では県平均を3ポイント上回っている。「読むこと」では県平均を1.7ポイント下回っている。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・授業では、言語事項に関する活動を多く取り入れ、学力の向上を図った。また、「話すこと・聞くこと」に関する問題では、ほとんどの項目で、県平均や市平均を上回った。日頃から、話すことに関する活動や対話を多く取り入れたため、学力の向上が見られた。
・「読むこと」の項目では、「複数の情報を整理する」問題において、課題が見られるため、説明的文章の読み方や様々な文章に触れることを指導したい。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)
※主な参考資料　帳票09、40

数学

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
1年	校内	6-A	−	−	R8数値	3.7	3.6	3.6	4.0	3.9	3.4	4.1
	県	6-A	2	6-C	県	3.7	3.7	3.6	4.0	3.8	3.4	3.9

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは県と同じである。昨年度からの学力の伸びた生徒が93.7%で、県平均より3.8%多い。努力調整方略が0.1、自制心が0.2、県平均より上回っている。一方でプランニング方略が0.1下回っている。よって県平均の学力なので学習方略と非認知能力との相関関係が見られる。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・小テストまたはICT機器を利用し、意図的な基礎基本の反復演習を図っていく。
・日々の計算練習やグループでの問題解決学習を今後も続けていく。
・プリントや宿題などを計画的に行い、数学に触れる時間を増やしていく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
2年	校内	7-A	2	7-C	R8数値	3.5	3.4	3.4	3.8	3.5	3.3	2.9
	県	7-B	2	6-A	伸び	−0.1	−0.2	0.0	−0.2	−0.3	−0.2	−0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・昨年度からの伸びは、2段階上昇している。領域ごとに比較すると、数と式と図形、関数で県の正答率を上回っている。また、数と計算と図形では大幅に上回っている。データの活用は0.6ポイント下回っている。また、知識・技能は県平均より1.8ポイント上回っており、思考・判断・表現は0.9ポイント上回っている。昨年度同様、小中でのギャップが影響してどの教科でも学習方略、非認知能力が下がっているように見られる。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・小テストを行い問題に繰り返し取り組ませる。
・デジタル教科書を用い、図形や数量関係など動きのある課題で関心意欲を高める。
・プリントや宿題などを計画的に行い、数学に触れる時間を増やしていく。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
3年	校内	8-C	1	7-A	R8数値	3.8	3.8	3.7	4.1	3.7	3.4	3.9
	県	7-A	0	7-A	伸び	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	−0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・昨年度からの伸びは、1段階上昇している。領域ごとに比較すると、数と式と関数、データの活用で県の正答率を上回っている。特に、データの活用では大幅に上回っている。図形は0.1ポイント下回っている。また、知識技能は県より1.7ポイント上回っており、思考判断表現も1.7ポイント上回っている。学習方略日認知能力との関係は大きく関係しているようには見られない。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・図形領域の表面積を文字で表すことや平行線の性質を利用して、同じ面積となる三角形についての説明にあてはまる式や三角形を選ぶ問題などが正答率が低いため、求め方や根拠となることがらを確認しながら説明できる力を身に付けられるように指導していく。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和8年5月実施)
※主な参考資料　帳票09、40

英語

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
2年	校内	9-B	-	-	R8数値	3.5	3.4	3.4	3.8	3.5	3.3	2.9
	県	9-C	-	-	伸び	-0.1	-0.2	0.0	-0.2	-0.3	-0.2	-0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力レベルは県より1上回っている。伸び率は横ばいか若干下回った。
・短答式や記述式の問題においては、正答率の比較では県より10%以上高いが、無解答率は3%多い。日常的な話題についての出題趣旨の場合の正答率は県と大差ないが、スピーチや経験を踏まえた内容では無解答率が顕著である。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・授業内で日常会話練習を継続して取り組むことで、身近な話題について英語で表現しようとする力を身につけた。定期テストで類似問題をくり返し出題することで、基本文を身につけ、実践につなげた。スピーチや発表場面を設定して、得た知識を自分で活用できる指導が必要である。

学年		学力レベル				学習方略					非認知能力	
		R8レベル	昨年度からの伸び	R7レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
3年	校内	10-B	3	9-B	R8数値	3.8	3.8	3.7	4.1	3.7	3.4	3.9
	県	9-A	2	9-C	伸び	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-0.1

1　考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))

・学力の伸びは3で県の伸びを1上回っている。
・適語補充や語形変化などの問題は県平均を上回っているが、助動詞を含んだ英文の並べ替え、疑問詞を用いた英文の並べ替え、不定詞を用いた英文の並べ替えなどに課題が見られる。

2　成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)

・授業中のパターンプラクティスに継続して取り組むことで、英文の基本構造を理解する時間を確保した。Retellのために家庭学習を呼びかけ、重要な表現の暗記や小テストに取り組ませて基礎基本の徹底を図った。

2　学力向上を図る取組

（1）各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力		
知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的な知識を基にした、生活や授業等の様々な場面で活用することができる力	②問題発見・解決につなげていく力 ③自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する力 ④意味や価値を創造していく力	⑤主体的に学習に取組む態度 ⑥自己の感情や行動を統制する力 ⑦自らの思考の過程を客観的に捉えることのできる力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ③ ⑦	①新出語句とそれに関連した語句を調べて理解する取組。 ③文学的文章の場面と場面、説明的文章の段落と段落等、部分同士の関係を明確にして文章を読み取る取組。 ⑦授業の振り返りと学習のアーカイブ化を図る取組。	
社会	① ③	①ワークシート、小テストなどを活用して、語句を確認し書き出したり、調べたりする取組。 ③基礎的・基本的知識を活用し、複数の資料を読み取りながら、自分の考えをまとめさせる、レポートなどを作成させる取組。	
数学	③ ⑦	③問題解決までの過程を自身で考えさせ、その考えを書き出したり、周りの人に伝え、表現したりする取組。 ⑦グループ活動を通して、他者の考えや意見を取り入れ、自分にとってより良い解き方や解決までの筋道を捉えさせる取組。	
理科	① ③	①小テストや単元テストを実施し、基礎学力を定着させる取組。 ③グループワークやレポート発表などを通して、自らの言葉で科学的思考を説明・表現していく取組。	
外国語	① ③	①語句や表現を身に付け、設定された場面で活用する取組。 ③英語の文章や会話に応じて適切な表現で返答したり、自分の考えを書いたり話したりする取組。	
音楽	② ③	②よりよい合唱をつくり上げるため、自ら課題を見つけてパート練習を行う取組。 ③鑑賞で、音楽から知覚したことと感受したこととを自分の言葉で表現する取組。	
美術	③ ④	③制作やグループワーク、スケッチブックの記入を通して、自分の考えを表現する取組。 ④自分の考えを深めそれを作品として表現する取組。	

技術	③ ④ ⑤	③問題解決までの過程を自身で考えさせ、その考えを書き出したり、周りの人に伝え、表現したりする取組。 ④製品の持つ意味や価値について理解し、新しい意味や価値のある製品を創造できる取組。 ⑤生徒が興味関心の高い教材を取扱い、主体的に取組む態度を育てる取組。	
家庭	① ③	①製作に加えて、部分的な基礎縫い練習の時間を設ける取組。 ③自分の考えを形成し、周りの人と相談したり、アドバイスし合ったりしながら学習を進める取組。	
保健体育	③ ⑤	③学習カードを用いて自ら学んだことや考えたこと、感じたことをまとめたり、ペアやグループで取り組んだ内容やアドバイスを言葉や文字にしたりする取組。 ⑤授業の導入を工夫することによって生徒が自ら学習に取り組む態度を養う取組。	
特別の教科　道徳	② ⑥	②自身の生活を振り返り、グループでの話し合いなどを通して様々な視点に気付く取組。 ⑥道徳的問題を自分事として捉え、探求していく取組。	
特別支援	③ ⑥	③毎日の日記、授業のふりかえり、グループワークなどを通して自分の考えをまとめ、表現する力を養う取組。 ⑥自立活動を通して、自分の感情との向き合い方や行動をコントロールする力を身につける取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
総合的な学習の時間（グローバルシティズンシップ教育）	○持続可能な社会づくりの担い手の育成 探究的な学習活動を繰り返し行うことで、各教科で身に付けた知識や技能をより一層高めたり、学習活動への意欲を高めることに繋がっている。
読書活動の充実	○読書習慣を身に付けさせるために図書館の利用を奨励し継続的な活用を促す。学年図書の設置、昼の放送等を利用した新刊図書の周知等、読書活動の啓発に努める。
学習環境の整備	○掲示物の工夫、清掃活動の徹底、下校時の教室整備の点検活動など学習環境の整備をする。
道徳教育の充実	○担当教諭が持ち回りで行うローテーション道徳の実施 ○全校が同時期に同じ題材で行う命の授業の実施
特別活動の充実	○体験学習や係委員会・学校行事を通して、責任をもち自ら考え行動できる力を育成する。
部活動への参加	○部活動に積極的に参加させ、気力・体力を育成し粘り強く学習に取り組む態度を育てる。
小中連携の推進	○小中合同研修の実施。 ○連携をもとに教育課程の見直しを図り、小学校から中学校へのスムーズなつながりをつくる。
家庭教育との連携	
家庭学習の充実	○学年ごとにシラバスを含む家庭学習の心得をつくり、家庭学習の方法を理解し継続的に学習し、学習内容を定着させる。
学校公開の取組	○授業公開等を通じて学力向上推進状況の理解を深める。 ○保護者アンケートを実施し、授業改善に努める。